

# 永 久 平 和

第131号  
(平成27年1月25日)

## 目次

巻頭言……………	1
未だ全体主義の日本人……………	1
瀬波秀人……………	1
本会長挨拶……………	2
「自らを信じ時代を切り開く」……………	2
仲條拓躬……………	2
★特集……………	3
SNSでの投稿記事を紹介……………	3
◆自給自足の試み……………	6
「ビオトープ水田」……………	6
仲條拓躬……………	6
◆石原莞爾の「戦後」を歩く①……………	10
岩崎章次……………	10
◆小話三題……………	10
山崎八九生……………	10
◆会員だより……………	10
◆書籍紹介……………	10
◆昭和天皇の御製……………	10
連載⑥……………	10
岩崎章次……………	10
●編集後記……………	12

——明日へのご招待——石原莞爾の思想——

- 宣言(昭和31年協和会「昭和革新論」より)
- 1、人類歴史は最終戦争時代に突入し、世界の統一は眼前に迫った。われらは最小の犠牲をもって、新しい歴史を開こう。
  - 2、都市解体、農工一体、簡素生活、この三原則によって新日本を建設し、搾取と戦争のない、人類次代文化の先駆となろう。
  - 3、東亜に対する過去の態度を深く懺悔し、まず近隣と道義によって固く結び、ひいて永久平和の実現に邁進しよう。

## 未だ全体主義の日本人



瀬波秀人

国に行く末を決める第47回衆議院議員選挙が行われ、結果として「戦争」と「原発」を認めることになってしまいました。大袈裟ではなく、歴史に残る選挙と、後世になって言われることでしょう。

集団的自衛権の行使容認が閣議決定されたとき、私は自分の町議会議員選挙以来の、街頭に立つてマイクを持つ行為の再開に、迷いはありませんでした。奇しくも選挙期間中の12月10日には特定秘密保護法が施行され、「発言を控える」風潮が身近にも生まれています。

私が住む北海道七区では、このような政府の動きに対し、民主党と新党大地が協力して候補者を推し、選挙区で敗れましたが、その差25票という勝利とも言える結果を出しました。統一候補者は新党大地の鈴木たかこ、あの鈴木宗男の娘と聞けばお分かりの方も多いでしょう。前回選挙に出馬して比例で繰り上げ当選、当時26歳(現在28歳) 最年少国会議員の前職です。二世議員と言えは聞こえは悪いが、今や「宗男の娘」ではなく鈴木たかこ個人「たかちゃん」と親しまれる実力派議員。選挙協力の結果、比例一位で当選していますが、実はこのことが選挙区での票を伸ばせなかったことにつながっています。

さて、いつの選挙でも問題なのは投票率。自公対野党対決の構図として全国的にも注目された、わが北海道七区でさえ59・46%、前回をわずかに上回った程度で、その前回の投票率はそ

もそも過去最低だったのです。選挙制度の問題もありますが、市民が政治に無関心で権利ばかり主張することは、逆にそういった層を取り込むことで勢力を伸ばす権力の思うつぽであり、衆愚政治の始まりです。「長いものには巻かれろ」「寄らば大樹の陰」では民主主義とは言えません。故に本文の表題を「未だ全体主義」としました。戦後民主主義は未だ成熟どころか浸透さえもしていないのでは?と感ずるのです。このことを認識することが、永久平和を目指す当会の活動にも必要かと考えるところです。

私と石研との関わりは、会員であった故草刈善造氏との交流がきっかけと言えるでしょう。氏は私的学会と称する「緑健ネットワーク」というグループをつくり、年に一度程度の集会を、千葉の自然王国や福島のマクロビアン(他に愛知・愛媛・大分など)といったメンバーの拠点で開催。私も同行して会議の進行など協力し、機関紙「緑健文化」の編集などもお手伝いしました。

この会で(敬称略、故人も多い)藤本敏夫、橋本宙八、中井俊作、中島正、佐藤忠吉、槌田劭、井野博満、津野幸人といった数多くの方々との交流をさせてもらったその中に渡辺正氏や河野信氏もおられ、その後、島田守康氏との交流につながっています。緑健ネットワークのメンバーは全て草刈氏自身が直接足を運んでお誘いしていたと聞いています。そんな絆のあるメンバーの集会は会議といっても、数人の発表と後は意見交換があるだけ。ひたすら自由な議論が繰り広げられ、ときに白熱しますが、終わりにには戦友のようにまた全国に散っていくのです。「民主主義」の言葉と共に、今なつかしく思い起こしています。

瀬波秀人(せなみ・ひでひと)……昭和29年(1954年)北海道生まれ。20代をヤマギシ会で過ごしたが、離村して故郷の中標津町に戻る。1997年、イスラエル・キブツを訪問。1999年、カナダ・フッターライト、アメリカ・アーミッシュを訪問。「理想社会」を探求する一市民。2012年より中標津町議会議員。

★特集 SNS(ソーシャルネットワーク  
キングサービス)での投稿記事を紹介



今号では、ミクシィ・ツイッター・フェイスブック・アットゲームなどのSNSサイトで、一般の方から歴史・戦争・石原莞爾について投稿

された生の声をご紹介致します。こういったコミュニティでは、若い方からも積極的なコメントを頂き、活発な論議が行われております。

これからの若い世代の方々に、石原莞爾の志を受け継いで頂けるように、今後コミュニティなどのツールを通して広く活動してまいります。

※SNSとは、人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のWEBサイトのことです。

橋場康之同志

石原莞爾氏の将来を展望する力に、改めて凄さを感じました。今の政治家の中に、どのくらい『感銘を受ける方が居るのか?』分かりませんが、同じ位に先見の明がある人物が居てくれたら良いのにと思いました。

高野 幸彦さん

冷厳かつ強力な象徴 広島市の元安川の東岸に、1945年以来、半ば廃墟となったままの建物が残っています。ほぼ70年間も、なぜ建て直されなかったのでしょうか。1915年に完成した元の建物は、レンガ造りモルタル仕上げの3階建てで、産業を奨励するための会館でした。しかしそれが、1945年8月6日、午前8時15分に一変しました。その時、広島市の上空、その奨励館のほぼ真

上、約550坪の所で、戦争で初めて使用された原子爆弾が炸裂したのです。会館の中にいた人はみな即死しましたが、その建物の主要な構造物は崩れずに残りました。その建物は、手を加えられずに保存されたことにより、「人類がそれまでに創出した最大の破壊力の、冷厳かつ強力な象徴」となっている、とユネスコの記事の中で述べられています。そして1996年、世界遺産リストに広島市の平和記念碑として加えられました。しかし、悲しいことに、そのような痛ましい記念碑があっても、戦争はなくなっていない。戦争の原因は多くの場合、貪欲、国家主義、また人種や宗教や民族の違いによる憎しみにあります。そうであれば、戦争はいつまでもなくならないのでしょうか

唐一寧さん

私は台湾台北の唐です。今、ドキュメントリーの資料調査員として役にします。只今、1933年、石原莞爾の最終戦争論について、一部分の原文がほしくても見つかりません。そのため、ご研究会はお助けてくれたら、大感謝と思います。その原文の中国内容は、發自美索不達米亞平原的人類文明、一以物質文明西進形成西歐文化、如今以盎格魯撒克遜尤其是美國為中心；一以精神文明東進形成東洋文化、日本將成為其中心。而為統一世界文明、以日本為中心之東亞及以美國為中心之盎格魯撒克遜族的決戰、必然在不久將來成為人類最後的大戰而發生。。。針對此我國防方針應迅速而巧妙地將中國本部納入我之支配下。。。以武力對抗俄國之陸上及美英之海上武力。。。誰かは石原さんの著作「最終戦争論」を調べて日本語の原文をお願いします。私の

e-Mail: dale662110@gmail.com 請求かたかた  
お問い合わせ  
中西順子同志

ますますのご活躍を祈念しております。  
一会員ですが、今後とも宜しくお願い致します。  
Yuko Maeda 同好

私の場合発端が「お告げみたいなのなので、異端な宗教ポイ面があり 理解を得られるかどうか、問題です。

ある時、神様のような存在から「あの世も生まれ変わりもない。死んだらそれっきり」と言われたんです。じゃあ、「今までの宗教はなんですか?」神様のような存在「皆さんの勘違い。覗いた資料庫の物語をホログラフィーで読んだだけ。」、

こんなの、賛同が得られるでしょうか?

私自身、お宮で御守り買ったり、お墓参りに行ったり、お腹が空くと貧しき者は幸いである。となくさめたりです。

自家の古いお墓の在りかを御先祖様から教えていただいたりしたのでそんなの有りますか?です。で、来世生まれ替わったら、や、六道輪廻、天国地獄は横に置いてまず自分で動く、知る、見るを一步一步心掛けるようにしました。

まあ、神様から神様なんてウソウソって言われたようなもんです。

そんな中から自然と感じた素直な流れが 石原將軍に近かったんだと思います。

実は詳細を学んでいないので論じるまでいってないのが現実です。私の持論と同じなので驚きます。勿論、私が考える事くらいどこかで誰かが考えてるはずなんですけど、なかなか同士?とあえ